令和元年 秋の叙勲
第３３回 危険業務従事者叙勲
令和元年 秋の褒章

令和元年１１月３日に発令された、令和元年秋の叙勲、第３３回危険業務従事者叙勲、令和元年秋の褒章の市内の受章者を紹介します。※承諾いただいた方のみ掲載

秋の叙勲
瑞宝小綬章
（教育研究功労）

佐々木（ささき）　盛生（もりお）さん（７３歳）
香北町美良布

佐々木さんは、昭和４３年から佐々木歯科診療所の２代目の歯科医師として、以後５１年余りの長きにわたり在職し、現在もご活躍されています。

本受章は、高知学園短期大学名誉教授であったときの功績が認められての受章です。佐々木さんが高知学園短期大学で名誉教授となられたきっかけは、歯科衛生士コースの開設であったとのことで、当時、県内に歯科衛生について学ぶ場が無く、高知学園短期大学が歯科衛生士コースを開設する際に声が掛かったとのことでした。教授として大学で講義をしつつ、診療所では歯科医師として勤務され、多忙な毎日であったことと思われます。

今後について、「これからも地域の方の口腔衛生の力となれるよう歯科医師として頑張っていきたいです」と元気に話されました。

秋の叙勲
瑞宝小綬章
（教育功労）

髙橋（たかはし）　啓明（ひろあき）さん（７０歳）
土佐山田町秦山町

髙橋さんは、昭和４８年、室戸岬水産高校で教師としてスタートされ、中村中高等学校長、岡豊高等学校長を経て、平成２５年３月に高知学園高知中高等学校長を退職されるまで、４０年余りの長きにわたり、その職務を全うされました。平成２０年から２２年までは高知県高等学校長協会会長も務められています。

在職中は、キャリア教育などに注力し、大学進学や就職をゴールとせず、自分を知り、どのように生きていくかなどを生徒自身が見つけられるよう取り組んできたとのことでした。また、中村高校では中高一貫教育の特性を活かし、ピアチューター（同世代の教師）の推進を図り、他県から視察が来るなど、先進的な教育方法にも積極的に取り組んでこられました。

今後は、日本考古学協会会員として、研究資料のまとめをしていきたいと話していただきました。

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章
（防衛功労）

岡本（おかもと）　尚司（しょうじ）さん（６１歳）
土佐山田町

岡本さんは昭和５２年に、陸上自衛隊に入隊され、平成２４年に３等陸佐として退職されるまで長きにわたり、その職務を全うされました。

在職中は、山火事の消火活動や震災があれば被災地の支援活動など多岐にわたる業務に就かれ、一時期は責任の重さに転職を考えたこともあったそうですが、家族や同僚、周りの方々の支えもあり退職まで勤務されました。阪神淡路大震災の支援活動で淡路島に出動した際には、自分の思っていた以上の被災地の様子に戸惑ってしまうようなこともあったそうですが、少しでも被災者に寄り添った活動ができるよう、取り組まれたとのことでした。

今後は、自衛隊への恩返しとして、隊員の募集及び自衛隊の活動を微力ながら協力していきたいと話していただきました。

秋の褒章
藍綬褒章
（香美市選挙管理委員会委員長）

松尾（まつお）　禎之（さだゆき）さん（６６歳）
土佐山田町西本町

松尾さんは、平成１１年4月から土佐山田町選挙管理委員会委員に就任、以来２０年余りの長きにわたり在職し、平成16年12月から香美市の合併まで土佐山田町選挙管理委員会委員長を、合併後から現在に至るまで香美市選挙管理委員会委員長を務め、現在もご活躍されています。最近では、若者の投票率を向上させるべく、高知工科大学と連携し、大学内に期日前投票所を設置し、また、中山間地域の投票環境の改善を図るべく、移動期日前投票所を導入するなど、様々なことに取り組まれました。

褒章の受章について、「この受章は皆さんのおかげです。市の選挙に協力いただいてきた投票管理者、立会人、投票者の皆さんが適正な選挙の執行に尽力し、受章したもので、私一人で受章したものではありません。香美市の方々に感謝いたします」と笑顔で話されました。

秋の褒章
藍綬褒章
（香美地区地域安全協会理事）

松村（まつむら）　純爾（じゅんじ）さん（７８歳）
香北町韮生野

松村さんは、香美地区地域安全協会の管轄組織である地域安全推進協議会推進員として平成６年から長年活動され、平成１１年からは安全協会理事及び推進協議会会長も務められています。推進員の活動では、毎月５日のパトロールや川上様夏祭りの夜間パトロール、交差点の足型の設置など香北町を中心に地域の安全に貢献されました。

褒章の受章について、「共に活動している推進員の皆さんの代表として私がいただくもので、私個人の受章ではありません。推進員さんの励みになるとともに、日頃から地域安全協議会の活動への協力に感謝いたします」とお話しされました。

今後については、無報酬での活動ということもあり参加者が少ないため、推進員が増えるように取り組んでいきたいと話されました。

吉井勇記念館だより

常設展　吉井勇の生涯

吉井勇は明治、大正、昭和の時代を通して短歌を含め、戯曲や小説など数多くの作品を残しました。

企画展では、勇が青春を過ごした東京時代、家庭不和等から隠棲した土佐時代、その後再起を遂げた京都時代に分け、直筆作品や資料を通して生涯をたどります。

中でも若き勇に大きく影響を与えた与謝野鉄幹・晶子や、同世代の歌人との交流、土佐隠棲時代を支えた今戸益喜や伊野部恒吉などの交友関係をご紹介します。

ぜひお越しください。

【期間】
12月4日（水）～
3月28日（土）

吉井勇作品紹介（京都終焉の地で）

京に老ゆおもひで持ちて見てあれば
　古女房も時にあたらし

京に老ゆ死をかなしとは思へども
　死と戯るることもおぼえぬ

休館のお知らせ

12月2日（月）・3日（火）は展示替えのため休館します。また、12月28日（土）～1月4日（土）まで年末年始のため休館します。
※1月5日（日）から通常営業

◆問い合わせ先　吉井勇記念館　☎58・2220